

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500023		
法人名	有限会社 大浦		
事業所名	グループホームへいわ		
所在地	宮崎県小林市野尻町東麓2566-3		
自己評価作成日	平成29年9月12日	評価結果市町村受理日	平成29年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon?true&JigyosyoCd=4590500023-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺には、道の駅や学校などの公共施設や田畑もあり、農作業やウォーキング、犬の散歩などする地域の人々と挨拶するなどの交流が持ちやすいので、ほぼ毎日散歩へ出かけるようにしている。また施設敷地内にも花壇や自家菜園の畑があり、季節を感じる事ができる。食事も利用者の希望を取り入れ、畑で採れた野菜を収穫したり調理を行うなど、楽しみや意欲の向上にも繋げている。季節ごとのイベントでは、地域のボランティアの方にも協力してもらい、花見や外食などできるだけ地域(外へ)出かけるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、国道も近く道の駅や公共施設等も近隣にあり、田園風景も広がり日常的に地域の方々と交流を深めている。管理者、職員は利用者を人生の先輩として尊敬して接し、利用者それぞれの残存機能、手続き記憶を引き出しながら支援している。利用者にはそれぞれの役割がありそれを生きがいとして行っている。施設には菜園もあり、利用者が栽培、手入れもしている。旬の食材を食事にも取り入れ、利用者と一緒に調理している。地域のボランティアの協力もあり、外出支援にも取り組んでいる。利用者はそれぞれの役割を日々行いながら残存機能を維持し、自分のペースで穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共用空間のよく目につく位置のあちこちに理念を掲示し、一人ひとりの望む生活ができているのか、常に意識し実践できるようにしている。	ホーム独自の理念を作成しており、常に意識するよう目につく所に掲示してある。職員も常に意識し「利用者一人ひとりの生活を大切に」の理念を実践するよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺を散歩し、積極的に地域の方に挨拶することはもちろん、施設行事に招待したり、地域の行事がある時は参加するようにして交流している。	地域のイベントに参加し、また、施設周辺を散歩して売店の方とも顔なじみになっている。ボランティアの協力も利用しており、地域との日常的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外食や買物などできるだけ外へ出かけるようにしており、地域住民に声をかけるようにし、質問や相談にも答えるようにしている。また、認知症カフェにも参加し、支援方法の実践を見て頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際が分かりやすいように、写真付き資料とし、具体的な意見が出やすいようにしている。そこでの意見等は職員会議で話し合い、サービス向上に活かしている。	写真入の資料を作成し意見が出やすいよう工夫している。散歩道の水路の問題なども話し合わせ、ボランティアの要請などの意見もありサービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政には必要に応じて電話や訪問するなど、報告・連絡・相談をし、連携を深めている。また、運営推進会議や市主催の研修などにも積極的に参加し、連携を深められるようにしている。	分からないことは随時電話連絡し、更新時期には役場に出向き、相談等行い協力関係は築けているが、行政との関係を生かしたサービス向上とまでは至っていない。	行政との関係作りはできているが、より積極的に働き掛け、行政と連携したサービスの向上に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修を通じて学ぶ機会を持ち、常に行っているケアが、身体拘束に繋がらないのか話し合うようにしている。施錠については、夜間帯で防犯の観点から行うものが多い。転倒する危険性や離ホームする方については、鈴やセンサーを付け見守りする事がある。	毎月の職員会議時に勉強会を行っている。身体拘束については職員も理解している。離ホーム、不穏のある利用者には家族の承諾をとり離床センサー等も使用することがあるが、利用者の安全面を考慮した身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に積極的に参加し、周知徹底している。小さなことでも虐待の芽になりうるのではないかと注意を払い、職員や家族にも積極的に声掛けし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加し、制度を理解できるようにしており、個々の必要性を話し合い活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい言葉を使い説明し、不安や疑問点などないか尋ねたり、一方的にならないように、理解し納得されるまで説明させてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また面会時など職員が積極的に声掛けし意見・要望を聞き、すぐ解決できる事はすぐ対応し意見受付簿に記入。全員で情報の共有をしたり、職員会議で検討するなどし、運営に反映させている。	家族には来訪時など、職員から声掛けを行い相談しやすい関係作りに努めている。家族から薬を減らす方向で考えて欲しいと要望があり、主治医とも相談し減らした例もある。家族からの要望は職員間で共有し運営に反映されるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月主任者会議や職員会議を実施し、意見を聞く機会を設けている。また、日頃から声掛けし、話しやすい雰囲気を作る様に努め、働きやすい職場づくりをしている。	代表者、施設長が面接を行っている。毎月の主任者会議、職員会議で話し合っている。日常的にも管理者と職員は意見を言いやすい雰囲気ができており、職員の意見が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を作るよう努めている。職員からの意見・要望などについては、その都度対処改善を行うようにしている。今年度は、処遇改善一時金など利用しベースアップすることができた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得など積極的に推進し、資格取得のための研修費用の補助なども行い、資格が取りやすいよう環境を整えている。研修会などにも参加してもらい、個々のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは交流をもつようにし、それぞれの問題点など意見交換を行っている。居宅のケアマネや医療機関などとも連携し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉遣いや語調・態度などにも気を配り、笑顔で積極的に話しかけ傾聴し、知り得た情報を共有し、それぞれに合った信頼関係を築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には今までの介護負担を労う気持ちを表し、また、在宅での利用者の状況や生活歴、病状把握に努め、出来るだけ家族の希望に沿えるよう、職員は事業所で出来る事を説明し、家族の話を読まないように傾聴し、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境に慣れる事や、今一番必要な事を見極める為、本人や家族との会話を多く持つように、関係づくりに努めている。また、他関係者からの情報収集にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	みんなで生活を共にする仲間として、それぞれの出来る事に目を向けて、家事全般を手伝ってもらうようにしている。また「ありがとう」「助かる」などお礼の言葉を積極的に伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも自由に面会できる環境を作り、家族と本人の絆が切れない様にお便りで情報発信したり、面会時には本人の望む生活について話をするなど、家族と協力して本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の状態に合わせて、散歩や買物・外出・外食・通院などの支援を行い、なじみの人や場所との関係が途切れないよう努めている。敷地内施設に兄弟・知り合いがいる方もおり、面会を勧めたりもしている。	利用者の各家庭を回りドライブをしたり、柿を採りに自宅に帰ったりしている。お墓参り、理美容の利用なども家族支援で行っている。併設施設の兄弟に会いに行くなど、なじみの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の言動をよく観察し、食事の席やソファの席など配置にも気配りし、一人が孤立しない工夫をしている。また、職員が間に入り、コミュニケーションを円滑に出来るよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	有料老人ホームへ入居変更された方については、定期的な訪問を心掛けている。また、居宅ケアマネジャーや家族にも近況を尋ね、いつでも相談に応じるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時センター方式の一部を活用し、全職員で本人の今の姿と気持ちをシートに書き、本人の希望に沿える様なケアプランになるよう努めている。また、日頃から本人とよく会話し表情を見ながら、意向の把握に努めている。	担当制でセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を利用している。利用者の思いや希望を生活歴や家族からの情報、日常の言動、表情等からくみ取るようにしている。利用者の意向を把握し本人本位となるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査資料や家族・友人など面会時に聞き取りしたり、日々の会話で本人から聞いたことなど記録し、全職員で情報共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に一日の過ごし方を記録している。家事やレクリエーション、ADL支援などを通じて、気付いた事や感じた事を記録し現状把握に努め、有する能力を引き出せるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個々に担当職員をつけ、本人や家族と日頃から課題について話し合ってもらったり、毎月一回の職員会議でも検討し、意見やアイデアなど取り入れ見直しもを行っている。	モニタリングは担当者が行い、見直しは随時行っている。家族の意向は電話連絡や来訪時に聞き取り、利用者も交えて話し合いを行っている。毎月の職員会議時も話し合い検討し、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・評価は一目でわかるように、○△×で分かりやすくしている。また、日々の気づきや創意工夫は、個々の記録に残し情報共有しケアプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望にできる限り応えられるよう、日頃から本人や家族とよく話し、柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、望む生活を継続できるように努めている。近くの公共施設に外出したり、地域の行事に参加したり、施設行事等に地域住民の参加を呼びかけるなど、地域と協働できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医療機関に受診できている。医師とも往診等で情報交換したり、緊急時の対応依頼や利用者の体調相談なども細目にし、すぐに適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員がかかりつけ医を継続している。協力医師の毎月の往診を受け、施設看護師の受診支援もある。職員は情報を共有し適切な医療が受けられる支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師と介護職は日常的に情報交換できしており、どんな小さな気づきでも報告できしており、利用者は適切に受診できている。また、医療機関の看護師とも相談できる環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報シートはもちろん交換し、病院への訪問、PSW及び医師からの情報を基に、利用者状況を把握するよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化や終末期の対応について、指針を説明し同意書ももらっている。終末期や緊急時ケアプラン更新時などには、その都度意向を再確認し、主治医等関係者とチームで支援に取り組んでいる。	入居時に指針を説明し同意を得ている。重度化や終末期にはその都度話し合いや、カンファレンスを行っている。主治医との関係作りもできており、必要に応じて訪問看護も利用するなどチームとして支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員個々の実践力の違いはあるが、緊急時には利用者の安全を確保し、看護師に連絡を取るよう周知されている。また、消防を招き、救急対応やAEDの使用方法についても定期的に訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、全施設合同の地域住民参加の防災(火災)訓練を実施。今年は水災時の訓練も実施した。また、グループホーム独自の火災・地震・避難訓練も毎月実施し、避難経路確認などの訓練を行っている。	年2回の防災訓練を実施し、ホーム独自の訓練も毎月実施している。備蓄もやっている。全施設での防災訓練では地域住民参加で行っているが、消防団等の参加もなく現実的な協力体制作りが不十分である。	地域住民参加の訓練は行っているが、実現可能な明確なマニュアルの作成や訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を重視し、全ての支援で自己決定できるような言葉かけに努めている。誇りやプライバシーを大切にに対応している。	一人ひとりの人格を尊重し自己決定を行わせるよう、選択しやすい言葉掛けを行っている。入浴や排せつ時の配慮にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人の思いや希望を表しやすいように、よく会話するように努めている。買物や外食・行事・献立なども自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、その人のペースに合った対応を心掛け、日々笑顔で過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	元気な頃の情報を基に、その人らしい身だしなみやおしゃれが継続できるように気を配り、衣類の選択や整容など、個々の能力に応じて支援している。外出や行事の時などは化粧も勧めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には菜園で採れた季節の野菜などを使うようにしている。献立も季節に合わせて利用者の意見を引き出し、反映させるよう努めている。調理・片付けなども個々の能力に応じて、力が発揮できるよう支援している。	利用者の状態に応じて一緒に準備や後片付けを行っている。職員も同じ食事を同じ時間にとっている。利用者全員が自立して食事をしているが、さりげない言葉掛け介助を行っている。旬の食材をできるだけ使用し、食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は、全職員共有できるようにホワイトボードに記入し、個々の必要量確保に努めている。食事でも個々の状態に応じて、食べる量や形などに気を配り支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じた口腔ケアを行い、歯だけでなく舌や口腔内の清潔も保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの意思表示や行動パターンをよく観察して、トイレ誘導を行い失禁を減らせるよう支援している。車イスの方でも、立位や便座移乗は自立出来るように日頃から訓練も行っている。ズボンの上げ下ろしなども、個々の能力に合わせ支援している。	日中は利用者全員がトイレでの排せつを行っている。日常の行動や表情を観察し時間帯を見て声掛け誘導を行っている。便の確認も行い、一人ひとりの能力に応じ、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無・量・性状など全職員が把握出来るようにしている。納豆や発酵食品・ヨーグルト・さつまいもなど個々の好みや習慣だったものも取り入れたり、水分量に気を付ける事や便秘体操も取り入れるなど予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日の入浴だが、希望があればいつでも入浴できるようにしている。18時以降入浴希望の方もいる。湯温も個々に合わせ、入浴剤や音楽の使用、ゆず風呂など楽しめる工夫もしている。	隔日の入浴を午後より行っている。入浴順番表を利用し利用者の意向に沿うよう工夫がなされている。1名は夕方入浴となっている。ラジオや音楽を流しながら個々に応じた入浴の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の健康状態や疲れなど状況に応じ、休息の声掛けをし希望に沿った支援をしている。夜間帯も安心して良眠できるように、環境設備や言葉かけに気を配り、十分な睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬についてすぐに確認できるよう、お薬手帳や薬の情報ファイルを用意している。病状が変化したり、薬の疑問点などあれば、看護師にすぐ報告できる体制もできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基に、出来るだけ楽しみ事も続けられるよう支援している。ADLやIADLなども個々の能力に合わせ支援し、外出など希望を聞きながら、気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望にそって、家族や職員で外出できるよう支援している。ボランティアの協力もあり、ほぼ毎日戸外へ出て、花見や外気浴など行うようにしている。また、季節ごとの行事として、花見や外食も行っている。	散歩は毎日行っている。季節ごとにボランティアの協力があり、利用者全員で外出している。また、買い物やお墓参りなどは家族支援で行っている。周辺施設への散歩の際には外食をするなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて、家族が管理している場合や、少額を本人が管理し、希望に応じて買い物をする人様々である。家族管理の場合でも本人希望の場合は、施設が立替えて支払う行為まで本人にしてもらい、買い物の楽しさも味わってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用可能で、自身の携帯電話を使用される方もいる。友人の電話や家族への電話の支援も必要時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルは丸テーブルで、なじみの関係が作りやすいようにしている。ソファも設置しくつろげるようにしている。廊下やホールには季節感のある絵や花を飾り、居間には思い出の写真や飾っている。トイレは車イスでも介助できるような広く、トイレの場所も分かりやすいよう大きな文字で、使用中も分かるようにしている。	共用空間は採光もあり明るい雰囲気の間となっている。丸テーブルを利用し利用者同士の関係も良く話が弾んでいる。季節の生け花は利用者が毎日お世話をしている。壁には写真も飾られトイレや居室も利用者が分かりやすいよう工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスにも椅子を設置したり、外を眺める場所も用意できている。テレビ視聴時は、ソファに座り、自由に気の合った者同士過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常設家具もあるが、本人の馴染みの物など持ち込み自由で、テレビやテーブル・椅子・仏壇や遺影など持って来られている人もいる。家族の思い出の写真も、出来るだけ飾ってもらうようにしている。	居室は利用者によっては仏壇を持ち込み毎日お茶をあげている。家族の写真や飾っている居室もあり、椅子、ラジカセを持ち込んでいる利用者もいる。利用者それぞれが居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーとなっており、安全な空間を提供できている。居室に洗面台もあるが、安全の為水だけにしている。居室の扉も最小の力で開閉できる引き戸になっている。		